



相原事務局長の

ナチュラル

Natural Note

のーと

vol.
7

私たちが未来を変える

1989年11月20日
大きなインパクト

30年前の連合統一大会の前日。全日本民間労働組合連合会は、新宿厚生年金会館で第2回定期大会を開催していました。そして、官公労組との統一を決定。堅山利文会長は、「民間連合としての最後の、新しい『連合』に飛躍するための有意義な大会」とし、「新しいナショナルセンターの誕生は、再編や分裂をくり返してきた、わが国労働運動にとって画期的。政治、経済、国際などあらゆる分野で大きなインパクトを与える」と官民統一の意義を強調しました。

1989年11月21日
39年間の歴史に幕

連合の統一大会の4時間前。日暮里のホテルラングウッドでは、総評が第82回臨時（解散）大会を開催していました。そのなかで、黒川武議長は、「労働戦線の全的統一に向けて懸命な努力を重ねてきた」ことを強調。「新しい連合が総評をはるかに追い越し、名実ともに日本を代表するナショナルセンターとなるよう全力をあげる」との決意を示されました。そして、最後にたたみ8畳分もあろうかという総評旗を降納し、39年間の歴史に幕を閉じたのです。

1989年11月21日
平和 幸せ 夢ひらく

午後2時。新宿厚生年金会館において2600名を集め、全日本民間労働組合連合会と官公労組との統一大会が開会されました。日本労働運動史上で最大の、世界ではAFL-CIO（米国）、TUC（英国）に次ぐ第3番目のナショナルセンターの誕生。大会スローガンは「平和 幸せ 夢ひらく」でした。

1989年11月24日付、「WEEKLY れんごう」では、『統一大会 78組織800万人の新しい「連合」スタート 平和 幸せ 夢ひらく』との見出しが躍りました。

因みに、歴史的な議事進行を務められたのは、自動車総連 草野事務局長、ゼンセン同盟 熊崎婦人部長、全郵政 蜂須書記長、自治労 兼田書記長（WEEKLY れんごう 記載順）の議長団でした。

「山岸章会長・葦科満治会長代行・山田精吾事務局長」丸の出版

山岸章初代連合会長は、結成大会挨拶で、第1に、先進工業国、日本のナショナルセンターとして、人権意識を原点に据えた国際的責任を全うする。第2に、額に汗して働く勤労者全体にスポットをあてた、幅広い「社会的に価値ある労働運動」をめざす。とりわけ、中小零細企業に働く労働者、パ

ート・派遣労働者にも光をあてた運動を構築する。第3に「連合への1000万人結集」「組織率30%台の奪還」。第4に、1日も早い地方組織、地域組織の確立の4点を重視すると表明されました。

そして、官民労働者の真の融和と相互理解の確立、とかく批判の多い「旧ふるさと意識」の速やかな克服は非常に重要と位置づけ、「対話と協調」「気配りの機関運営」を心掛ける、仲間のみなさんのバックアップをお願いしたいと訴えました。

未完成なるが故

連合統一大会の滑り出しは、堅山利文統一準備会委員長による統一にいたる経過説明。

堅山委員長は、「新しい連合も完成品ではありません。弱点もあるかもしれませんが、未完成品なるが故に、私たちの努力によって無限の可能性を持っていると思います」「本日の新しい連合の発足で、40年余にわたる労働運動の第一線から引退します。日本労働組合総連合会 万歳」と締め括られました。

また、国民のみなさんへのメッセージと題された統一大会宣言には、「日本の労働運動が産声を上げてはば1世紀。働く仲間の永年の願いであった労働界の統一が本日ここに、連合の結成をもって実現しました。これで、ようやく日本の労働運動は、みなさんとともに、家庭の幸せを大切にしたい」ゆ

とりある豊かな社会づくり」に一つの心で取り組むことができるようになりました」と刻まれています。

時代に迫る

話は変わりますが、太平洋戦争を経験され、労働組合の専従に就かれた大先輩から「戦争当時は確かに食うや食わずで腹を空かしていた。ただし、『腹へった』とは異なるあの『ひもじさ』を、今、言葉にしると言われても、中々難しいものだよ」との一言を覚えています。

確かに、その場に居なければ感じられない空気感、その場に居たとしても後々、言葉では表現しにくい匂いともいうべきものでしょうか。その意味では、連合結成当時に迫ろうと当時を伝える文字を追うことの限界も承知するところです。それでもなお、同じ労働運動に携わる私たちが今できること、しなければならぬことは、先人が全力を投じた時代感に少しでも近づく努力ではないでしょうか。

届いていたはず

2019年10月10、11日。連合は、第16回定期大会を開催。国内外からのご来賓、代議員、傍聴者など、1300名の参加のもと、結成30周年の意義を確認し合いました。

さて、今回の大会会場は新宿区立新宿文化センター。開場は1979年。1989年

の連合結成大会会場の新宿厚生年金会館は目と鼻の先。その新宿厚生年金会館も大手家電量販店の本社へとその姿を変え今はありません。ただ、結成大会の熱気は、この新宿区立新宿文化センターにも届いていたのではないか。そんな思いが頭をよぎります。

楢田のボール

ラグビー日本チームは、スコットランド戦の死闘を制し史上初のベスト8。日本中が沸きました。一方、リーチ・マイケル主将はじめ、各選手から、台風19号の被災者のみなさんに向け心からのメッセージが届けられました。肉弾戦を制す屈強なフィジカルと冷静な試合運びを支えるメンタル。そして、チームメイトを心から信頼し合う「ONE TEAM」の精神。それらが高次元で融合した日本チーム。想像を絶する努力の賜物です。昔あるラグーマンが私に教えてくれました。ラグビーは、全力で走った者の胸にあの楢田のボールは飛び込んでくるようになっているのだと。「新しい歴史を作る」と淡々と言葉にできる選手たちの胸にボールは飛び込んでくることでしょう。

働くことを軸とする安心社会
くまもる・つなぐ・創り出す

私たちが未来を変える。みんなで前進しましょう。働く仲間の期待をこの胸に受け止めるため。